

## 平成 29 年度 第 1 回逗子市生涯学習推進懇話会 会議録

- 日 時 2017 年（平成 29 年）6 月 2 日（金） 14：00～16：10
- 会 場 市役所 5 階 第 1 会議室
- 出 席 懇話会メンバー 金山彰風、大石忠、津留崎寿美子、田中肇、岸原晃、岸名佑未子、宮下重美、石井進介、服部誠、（敬称略）  
アドバイザー 高橋美恵子（敬称略）
- 欠 席 懇話会メンバー 依田仁、小林仁、東弘之、關正義（敬称略）
- 事務局 市民協働部：若菜部長  
市民協働課：須田課長、栗飯原副主幹（途中退室）、中川係長、北村（記録）
- 傍聴者 なし
- 配布資料
  - 資料 1 逗子市生涯学習推進懇話会メンバー名簿
  - 資料 2 生涯学習推進プラン 平成 28 年度評価シート
  - 資料 3 総合計画・基幹計画・個別計画の進行管理について
  - 資料 4 今後のスケジュールについて

### ○開会

- 部長あいさつ
- 自己紹介
- 座長あいさつ

### ○議題

#### 生涯学習活動推進プランの評価について

##### 【資料 3 の概要説明】

事務局：平成 27 年度からスタートした総合計画においては、それまで個別プラン、こちらの生涯学習推進プランをはじめ、環境基本計画など、それぞれ個別に進行管理をして、担当課を中心に進行管理をして担当課へフィードバックするというをしてしていたが、今回の総合計画の策定の中では、そうではなく個別計画を含めた計画を一体で連携しながら進行管理していくことによって、最終的には総合計画の市の推進につながるという仕組みにしたことによって、それぞれ、総合計画、基幹計画、個別計画というところが連携しながら進めていくということですので、計画の進行管理、さらにはフィードバック、最終的にそれを行動にうつすということについても連携してやっていくということですので、多少は例年より進行管理の時期が早まっています。従来は決算の 9 月の議会の後くらい、じっくりと進行管理、評価していくということもあったのですが、8 月、9 月に総合計画の最

終的な総合計画審議会というところで総合計画全体の進行管理を行う関係で、それより前にそれぞれのプランの評価をする必要があるので時期が早まっています。

資料をご覧くださいと、1番-総合計画における進行管理のポイントの2で、「市全体の計画体系の下、総合計画、基幹計画、個別計画の3層が、それぞれ進行管理における役割を分担することで、施策分野での縦の連携・連動が図られた効率的、合理的な進行管理を行う。」となっています。3では、「策定に関わった懇話会等が、それぞれの進行管理に関与する。」とあり、こちらのプランであれば、本日開催している懇話会がこれにあたります。また、6番の評価については、市が自己評価をするものとしています。それにあたっては、審議会や懇話会からこれに対する意見をいただき、その意見を元に最終的に自己評価を確定するという事になっています。基本的には、それぞれのプランの懇話会メンバーからさまざまな意見をいただきたいということでございます。

2番については、例えば懇話会がない場合であるとか、事業はあるけれども懇話会がないとか、基幹計画がないけれども事業があるとか、そういったことが書かれています。

3番ですけれども、ピラミッドの図をご覧ください。進行管理の全体像としましては、これまでは総合計画を基に個別計画がぶら下がっているという形でしたが、27年度の新しい総合計画からは、ピラミッドのような形で基本構想、実施計画、基幹計画、個別計画と一体的な連携をしていくということになっており、総合計画の中に基幹計画が5つあり、その1つが教育推進プランです。その中には個別計画が5つあり、それぞれ個別計画の進行管理をしたものが基幹計画である教育推進プランでとりまとめられて、最終的には総合計画審議会の方に、これに基づいて進行管理を行っていくという仕組みになっています。個別計画の進行管理にあたっては、従来型の進行管理というのは、それぞれの個別計画ごとに記号で評価をし、各施策別に評価を記号化していたかと思うが、新しい仕組みの中では、それぞれの事業の、この生涯学習推進プランにおいては19の事業が該当しますが、その事業の進行管理、進捗状況に対して評価、意見することによってそのプランの進行を管理する。ということなので、それにぶら下がっている事業がきちんとできていれば、この計画は順調に進んでいるというような形の評価をしていきたいと思っております。細かい数値的な統計的な処理というの、実際に行われた事業に対して、さまざまなご意見をいただき、それをあげていきたいと思っております。本日お配りしている評価シートも、A、B、Cをつけるのではなく、この事業内容を見ていただいて、それに対するご意見をいただくというような形で進めていきたい。最終的に、総括進行管理票のように、いただいた意見を事務局で整理して作成し、提出していくというような流れとなります。あくまでも、このシートについては、事務局でとりまとめをして、次回の会議でお示しできればと思っております。

座長：何かご質問はございますか。

メンバー：生涯学習の計画に関する進行管理の前に、私は、障害福祉計画の懇話会の委員であり、その進行管理をしたが、そのときに配られた資料についてはよくまとまっていた。市民協働課で配布された資料は整理されていなくて膨大な量を読むことは無理なので、懇

話会にかける前に概要を1、2枚ほどにまとめていただきたい。福祉計画の際の資料があるので、コピーして参考にしてください。

確認があります。総合計画については平成27年から3年間ということで、平成30年から見直しをすることになるので、個別計画の中でもそれを踏まえてほしいという説明があったが、個別計画の見直しの必要性の有無についても、検討課題の中に入れる必要があると思います。

座長：1つの様式でさまざまな問題を網羅できるかという問題は感じております。試行錯誤の段階で、評価の仕方が決まっている訳ではなく、それぞれの方法をすり合わせていかないといけない。この次の基本計画の改定に間に合えば良いですが。

もう1つ、見直しの必要性ですが、お時間があれば皆さんからもご意見をいただきますし、企画から要請が出てくれば年度末にそのための会議を開かなければいけないと思います。

事務局：様式に関しては、先ほどメンバーが示されたような企画課の様式も把握しており、どちらで出すべきか検討したのですが、昨年はこちらの様式で懇話会において評価をいただいておりますし、統一様式なので施策の位置付けがなかったりしますので、検討の結果、以前と同じ様式をご覧いただいた方が、評価をしていただく上では良いかと思ひまして、あえてこちらの様式を使わせていただきました。事務的な作業としては企画課の様式に変えることは簡単ですが、そういった理由でこちらの様式を使いました。こちらの様式にあって新しい様式にないもの、逆にこちらになくて新しい様式にあるものというのは、意見をいただいた中で埋めることが出来ますので、そちらはご協力をいただければと思います。

座長：他にご質問、ご意見ございますか。

メンバー：生涯学習のプランの場合には、何年経って目標が達成されるのか、例えば2年計画、3年計画、といった目標の数値が明確に出れば良いが、学習活動の場合、それを数値化できるのかどうか。大きなテーマに対して、講座を何件やったか、入場者数、アンケート結果、ある程度データで概要にまとめた形にいただきたい。活動の実態をどう数値化するかをまずメンバーで検討する必要があると思います。

座長：その問題は、計画の見直しの時点でやっていきたいと思ひます。これを作るのには非常に慌ただしかったもので、計画の本文に力を入れて、目標のところを十分に検討していなかったという感じはします。例えば、16番の図書館活動をご覧いただくと、平成30年度目標、逗子市民の図書館カードの登録率が50%以上になっているという目標設定があるが、もうこれを達成してしまっています。こういう、目標の設定の仕方と、つくるときに数値目標を出せという企画課からの指示があった訳だが、こういう目標がはたして妥当なのかという問題はあります。ですので、今この問題は議論せずに、次の改定の時にしたいと思ひます。それから、16番のところ「リファレンスサービスの使い方の講習等を行ったらどうか。～」という、去年のものがそのまま残ってしまっていますが、このように書いていくと非常に時間がかかってしまいますので、本日の資料2にあります評価シートにお書きいただいて、事務局へお送りいただきたいと思ひます。

事務局：新しい様式においても、施策の中でそれぞれの事業が掲げられていまして、審議会・懇話会からの意見の欄が少し小さいですが、事業ごとに1つのシートにしたいという理由がありましたので、こちらのシートにご意見をいただければと思います。

### 【進行管理について】

#### リーディング事業から順番に審査

事務局：本日は、事業に関してご意見をいただくということもありますが、ご質問や、もう少しここが分かれば理解しやすいなども含めていただければと思います。次回までに、それぞれにご意見をいただきたいと思っておりますが、本日、口頭でいただいたご意見も全て報告していきますので、例えば、この進捗がこのままで良いとか、もう少し改善した方が良いとか、参加者が少ないとか、色々ご意見をいただければそれも含めてまとめていきたいと思っております。

#### ① 共育ネットワーク構築事業

座長：事業が8つあり、だいたい同じ様式で書いてあるが、申込み期間と参加者数、どのくらいの希望があったのか、参加人数が14名、親子7組と書いてあるが、子どもの学年、男女別がわかればもっと具体的にイメージがわくのではないか。できれば学校名も。それが分かれば、学校に対する働きかけが見えてくるのでは。文章で気になったのは、「マイコンには、～」の「は」はいらないのではないか。その他も少し文章が読みにくい。それから、当日の様子が写真でついているが、アンケートがあればそれを記載した方がよい。その次のページで、「臨床美術」という言葉が熟していないのではないか。5ページ、「エネルギー」がよみにくい。また、講師の「ネクスファ」や「理科ハウス」がどのような団体なのか、簡単な説明を付けるとなおよく分かるのでは。9ページ本文、グルーガン、の意味がわからず、わかるように。結果的には市民にいくものなので、行政が努力しているということが見えるように。何かご意見ございますか。

事務局：あまりなじみのない事業かと思いますが、平成27年度に共育プランをつくり、これにのっかって、市がパブリックサービスに指定管理をしている市民交流センターで、生涯学習と共育の事業を行ってもらい、交流センターを中心にさまざまな取組みをしていただいている。その中の目玉として、平成28年度は、国の地方創生の予算がとれたので、約500万円を委託料としてかけて、年間を通じて子どもたちが参加できるようなワークショップの開催であるとか、そういったワークショップのプロを育てるような講座や、3月の最終週には共育フェスティバル（従来の子どもフェスティバル）などを開催して、年間を通じて事業をしていて、それが大きな1本の柱です。もう1つは、ポータルサイトの開設です。「ナニスル」というもので、市内のイベント情報を一元化してカレンダーの中で検索ができるようなポータルサイトを開設するというのがもう一つの大きな柱です。それがおと

としての11月に完成したので、このポータルサイトと共育の事業の2本柱で、このリーディング事業を進めてきた。その中で行われた講座というのが、この資料にあるような、「ずしこト」などを年間を通じて開催してきたものです。これについては、初年度は補助金があったので大規模にできたが、今年度は地方創生というような補助金がないので、事業費はかなり落ちますが、昨年のノウハウを活かしながら、今年度も来年度も継続していくというものです。その初年度の結果がこちらなので、それについて、これで生涯学習や共育が推進されるのかという視点でご意見をいただければと思います。

メンバー：参加人数は書いてあるのですが、募集をかけたときの想定人数はどこかにあったのか。最初の予想と参加人数との比較がわかれば、それによって人気があったのかどうなのかわかる。

事務局：その資料は用意いたします。人気度はかなりあり、キャンパスというNPOが市内にあり、東京や横浜に行かないと通常は受けられないような講座が、今回は予算もあったため、逗子で開催ができたこともあります。

メンバー：対象は小学生ですか。年齢制限はかけていますか。

事務局：講座によって違いはあります。

メンバー：子どもといっても幅広いので、その分布が知りたい。

メンバー：ポータルサイト「ナニスル」ができたということだが、子ども関係のポータルサイト「えがお」もあり、子どもに関することを調べたいときに、どちらを使えば良いのか迷うことがけっこうあり、そのすみ分けはあるのか。どちらから入っても、連携しているのか、教えていただきたい。

事務局：ナニスルは大半をカバーしていて、えがおは子育てに特化したサイト。

メンバー：実施された講座の最後に、共育フェスティバルがあり、参加人数等はのっていないですが、フェスティバルですと大勢の人、親子が参加していると思いますので、講座とフェスティバル単体ではなく連携した狙いが必要かと思います。

事務局：共育フェスティバルは3月の末に開催していますので、1年間の成果の発表の場でもあり、それ以外の要素もありますが、資料の配布には間に合わなかったですが、報告書は提出されております。年間を通じて参加いただいた方が、年間の成果としてフェスティバルに登場していただくということもあり、基本的には年間の活動の発表の場となっています。

メンバー：ナニスルに関して、色々な情報が集まっていて、交流センターに申込みをしたりチラシを持ってきた団体は各月のカレンダーに載っていくという形と、ボランティア募集も載っているが、基本的にみにいかないと情報がゲットできないので、FB やツイッターなど、待っていても情報がくるものもあるので、市のフェイスブックページや、「今日のナニスル」など、システム上できるかわからないが、その日にあるイベントを反映するなど、そういう風に活用できたら、閲覧件数も増えるのではないか。このプランの目的が、多様な実施主体がうまくつながってネットワークを形成していく、ということもあるので、そ

れを達成するために、情報からつなぐ、そういう仕組みもあつたらよいかと思います。待っているだけでなく、発信する。

事務局：情報はある訳なので、その発信の仕方は工夫のしようがあると思います。ナニスルが使いやすいという方もあり、使いにくいというご意見もあるので、少しずつ見なおしはしてきています。当初は、横浜などの情報や展示会の情報が連続して何ヵ月も入ってきている状況があり、そこから自分の知りたい情報を探すのが大変だったが、現在は、逗子、葉山のイベント情報に限定してよくなってきている。

メンバー：子育て関係では、子どもに関する情報だけをメルマガで送ってもらえるようなシステムができていますので、興味のあるテーマなどで必要なデータをしばって、それに該当するものだけ送られてくるような仕組みができればいい。

メンバー：それは人手をかけずにできるのか。

メンバー：現状でも、テーマをしばって検索することはできているので、

事務局：なので、あとは登録をしている方にメルマガで送信する仕組みができれば。もしくは、SNSで発信をして、友達やフォローしている人に見られる形にするなど方法はあるかと思います。

メンバー：ナニスルの年間アクセス数が4万4千件ということだが、365日で割ると1日100件ちょっとだが、比較のしようがなく、多いのか少ないのか。何となく少ない気がするが。

事務局：ポータルサイトえがおが同時にスタートしたので比較されるが、それよりは少し多いです。4万件という数字は多いですが、これはナニスルだけでなく、その中の講座を検索してヒットしたものがナニスルだったという件数も含まれているので、実際にナニスルを見ようとしている件数はもう少し低いかもしれません。更に閲覧件数は増やしていかないと、民間のサイトに比べるとまだまだ少なく、交流センターにいらしている方へのアンケートでさえナニスルの認知度は低いので、周知が足りないところではある。

メンバー：色々なところにパンフレットを置くなど、ナニスルの広報活動はしているのか。これだけの情報社会で、年間4万件は非常に少ないと思う。

事務局：市のホームページのトップバナーにはあるが、直接的に手元に届くようなPRをしていかなければいけないと思う。

メンバー：広報ずしが市から届くが、私の娘はよくそれを見て子育て講座などに行っているの、そういう人たちにこういうサイトがあることを知られていないことがいちばん問題なのではと思います。良いものがあるのに使わないのはもったいない。

メンバー：私は仕事柄、逗子に住もうか検討している人に会うことも多いので、そういう人にナニスルを添付して送っている。まず家を探しに来るのではなく、たくさんのイベントがあるんだと知ってもらい、おもしろいと言ってもらえることが多い。

メンバー：市内に住むお母さんたちが、こういうサイトを見てお出かけするという活用がもっと頻繁に行われるようになれば、講座の参加人数も増えていくと思う。若い人たちは、

ケータイで情報を得る社会に住んでいるので、いまいちばん力を入れるべきところかと思っています。せっかくお金をかけているので、きちんと活用していただきたい。

事務局：情報量がたくさんあって満足ではなく、それを発信するところにこれから力を入れる必要がある。

## ②生涯学習講座事業

事務局：生涯学習講座事業は、ずし楽習塾推進の会というところに、従来は市から委託をしていたが、現在は、指定管理者であるパブリックサービスからの一部委託という形で行っている。年間70万円というのはずっと変わりなく、これだけの事業をするのは大変と思いますが、Ⅰ型からⅣ型の講座をしている。その回数、参加人数、内容は裏面の一覧にのっている。Ⅰ型というのは、市民講師型というもので、講師とテーマをまず募集して、いまちょうど広報ずしで募集していますけれども、最低参加者数を上回った講座について開講が成立するというものです。Ⅱ型は、グループ型で、ずし楽習塾推進の会と、あるグループがパートナーとして協働で開催するというもの。Ⅲ型はテーマ募集をし、そういった経験や知識のある方とずし楽習塾と協働して、自分だけでは講座を立ち上げられないという方にも開講ができるというプロジェクトです。Ⅳ型は、市民協働課が交流センターにいた頃から姿を変えてきています。昔は、行政がテーマを提案してずし楽習塾推進の会が同意をした場合に進めていたが、今は協働企画講座ということでやっています。

座長：ずし楽習塾事業というのは、最初のプランの中にずし楽習塾という構想があり、その実現のためにボランティアを募って準備会を開きました。私はこのときに社会教育委員だったもので、これをつくるのにかかわっていないが、準備会から立ち上がってしばらくの間、楽習塾の役員をやっていたが、任意団体では支障がでてきて、NPO法人として認可をいただいている。70万円で到底この全部の講座はできないので、Ⅰ型は市民講師の希望する受講料がかかる、Ⅱ型はグループに費用をお渡ししているので参加は無料、Ⅲ型は講師謝礼は払っていますが、参加者は無料、Ⅳ型も無料（資料代などのみ）です。去年は具体的な資料をいただいたが、少しあっさりしていて、評価がしにくい。

事務局：アンケートをご提示します。

座長：資料の中の、受付期間、開講の終了はいらなと思う。募集人数よりも参加者数が増えているのは不思議です。Ⅱ型の、グループ名がかいていないのであるとよい。

メンバー：前年度との比較があると良いと思う。

事務局：講座の内容も少し変わってはいますので。

メンバー：生涯学習というところに、たくさんの方に参加いただき、色々な学び、育ちがあるというところにこの事業の大きな意味があると思うので、講座数とあわせて2、3年分の参加者数があると評価しやすい。

メンバー：生涯学習の講座というのは一般の市民にもより関心が深まっているので、ビデオ録画するなどして参加できなかった人にも視聴してもらえるようなことはどうなのか。

事務局：定員の倍以上、申込みがある講座もあるので、講師の方の権利の関係もあるが、それがクリアできれば、貴重な意見として懇話会の意見として残していきたい。

メンバー：健常者向で、視覚障害者や聴覚障害者は、通常の講座は受けられないので、バリアフリーの視点からの情報提供も考えてもらいたい。

座長：例えば、ビデオを撮るグループというのもあるので、そういうところの協力を得られるかもしれない。Ⅰ型は学習なので、Ⅱ型、Ⅲ型なら考えられるのでは。以前、市民大学講座というものをやっていた時に、参加者に協力をいただき、録画はできなかったが、録音したものをテープ起こしして参加者に冊子を配布したこともあるので、そういうことも可能かもしれない。

メンバー：ビデオ化、映像化の件ですが、講師の視点からすると、参加者以外が聞くとか見ることはあまり想定しないで話すので、あまりよしとする人は少ないかもしれない。争点になるところは、後から見て言われたら嫌かなと思うので。

座長：講座のテーマがすこし、趣味・娯楽に傾いている気もするので、もう少しアカデミックなものがほしいという感じがする。

## ⑥市民活動支援講座事業

事務局：市民協働課の自主事業として行っていたが、平成 27 年度からの指定管理に伴い、専門的知識を持つ方々が管理者になったこともあり、すべて指定管理業務として行っています。従来やろうと思ってもできなかった、交流センターフェアなどもできるようになり、見ていただくと割と良い講座をしているのだが、人数が少ないということがこれからの課題。講師が、手塚館長という、その道ではかなり有名な方で良い内容の講座を行っているが、館長は人数にとらわれず、続けていきたいと言っている。

座長：1のずし市民講師登録説明会というのは、ずし楽習塾の講師ですか。

事務局：ずし楽習塾の講師ではなく、従来、何々ができます、イタリア語が話せます、など市民講師登録制度があったのですが、更新制度を設けておらず、その方が今現在も講師ができるのかという確認をしていなかったのが、指定管理制度になったことをきっかけとして、今まで登録をしていた講師に打診をして、改めて登録をしていただいています。その登録にあたっては、研修を必ず受けていただき、顔写真つきの申請をしていただいて、ホームページにも公開する制度としている。受ける方も、顔もわからない方に講師をお願いしにくいと思いますので、そのような制度としています。

メンバー：「チョット知りたいボランティアのこと」講座について、あまり人数が集まらなかったとのことだが、内容はどんなものだったか教えていただきたい。ボランティアとは何か、というのは市民の皆さんに伝えなければいけないところなのですが、参加人数が3人と少ないので、どういう内容だったのか気になった。交流センターフェアで、要約筆記の皆さんや、障がいのある方、などが参画されたことは嬉しい。もうひとつ、交流センターの取組みとして11月に行われた、オレンジフェスの中で、徘徊認知症者の捜索シュミレ



ーションを開催したことを、ここにのせても良いのではないかなと思いました。

事務局：ボランティアの講座の内容としては、ボランティアという言葉の由来から、ボランティアという言葉に対する意識の編纂、「新しい公共」という考え方のなかでのボランティアの位置付け、ボランティア活動を行う上での考え方、心がまえなどが報告書で、～心構えなどが館長から解説されたということです。

メンバー：社会福祉協議会、ボランティアセンターだったり、市内にも色々なボランティアグループがあるので、そこをもっと巻き込んで館長と共にできれば、人ももっと集まったり、学生のグループや 20 代 30 代も多くなかかわってくれるようになっているので、障害学習の観点からも、そこができていくと良いかなと思いました。

座長：詳細がのっていない事業は資料を追加していただきたいと思います。

メンバー：現状値のところの 3 分野がわからないので教えてほしい。

事務局：確認します。

メンバー：徘徊認知症者の検索シュミレーションの話をしたが、これは共育フェスティバルとも関係していますか。

事務局：共育フェスティバルは、共育ネットワーク事業にありましたが、市民活動の関係で捉えている。

メンバー：共育フェスティバルの中に、例えば「あそぼら」などは、けっこう親子が集まってやっていたのでどうですか。

メンバー：親子ともども色々な体験ができるという良さはありますね。

## ⑯図書館活動事業

座長：資料がまったくないので、後ほど請求したい。

事務局：追加資料を請求するのであれば具体的にいただきたい。調書の中で平成 27 年度とあるが、平成 28 年度の間違いですので、訂正をお願いしたい。図書館の年報は、次回の懇話会には間に合わないなので、別の資料請求があればお願いします。

メンバー：カード登録率は、あてにならない数字だと思う。持っていない図書館には行っていない現状があるので、どれくらいの年齢の人がどのくらいの頻度できているか、どんな図書が貸し出されているのかのデータがあった方が良い。あとは、図書館でも色々な行事をしている（お話し会など）ので、それもどんなことをやっているのか知りたい。それがわかれば、今後、どんな働きかけが必要になってくるか見えると思う。

事務局：全部がわかるものは難しいかもしれないが、図書館年報ができれば、統計はあると思いますので資料としてお送りしたいと思います。

座長：逗子の図書館は、県内の図書館の中でも 1 位か 2 位くらいの、総合的な評価がある。特に、レファレンスサービスという、直接、窓口で何を調べたいか伝えると職員が調べてくれるサービスがあり、それは素晴らしいです。日本の教育は図書館教育が薄いので、子どもたちにも是非、使っていただきたい。

メンバー：逗子市は市民以外でも図書の貸し出しはできますか。

事務局：逗子市内に通勤通学されている方、横須賀市、鎌倉市、三浦市、葉山町にお住まいの方は無料で図書カードが作れます。有効期限は3年で、更新制。

座長：横須賀市、三浦市、葉山町は協定があるので、向こうの本も借りることができます。横浜市はできません。ただし、どの公共図書館もそこへ行ってみることはできます。取り寄せサービスなどもあります。

メンバー：鎌倉市の本を借りることがあり、逗子の図書館経由で借りたことがあるが、返却は鎌倉市に返さないといけなかった。返すことは大変でした。

### ⑱体験学習施設講座等事業

座長：資料がコンパクトにまとまっていてわかりやすい。

メンバー：2018年度目標の延べ受講者数が1,500人、利用者数が5万人というのは、何を根拠にしているのか。

事務局：総合計画をつくるときにその担当所管が、定めた目標に対してそれが妥当だという承認を得て設定している。目標をつくったときの現状値は、受講者数が約1,000人、利用者数が約30,000人ということだったので、その実績をもとに、これ以上ということで設定しています。

メンバー：スマイルを利用する場合には予約制になっているので、その値などもあっても良いのでは。

事務局：施設利用者数は記載があるが、予約して使用した方の人数がわかればよろしいですか。

座長：そうです。あとは、できれば講師の名前があるとよいかと思う。市民がどのくらい関わっているかということが知りたいので。

座長：以上がリーディング事業となります。本日、ご意見をいただいた事業も含めて、資料2の評価シートにまとめてご提出いただきたい。その日程について、事務局から。

事務局：資料4をご覧ください。今後のスケジュールについて、事務局側で想定させていただいたが、本日のまとめをしたものを確認していただくことと、新たにご意見をいただきたいので、もう1度、懇話会の開催をしたいと考えております。6月の26日（月）から30日（金）の週で調整させていただきたいと思います。本日、色々ご質問や資料の追加を要望いただいておりますが、他の事業も含めて、6月9日（金）までにお電話、メール、ファクスでいただければと思います。いただいた内容については、6月16日（金）までに逐一、お戻りする形を考えております。最終的に、6月21日（水）までに、19事業について整理したものをいただき、次回の懇話会では資料としてお渡ししたいと考えておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

メンバー：質問に対する回答は、質問した人にだけ回答されますか。

事務局：全員にお送りします。

メンバー：今回の資料も、もう少し早くいただけると読み込めるので有り難い。

メンバー：市の今の、大きい動き、施設のことなどあれば、資料としてほしい。

### アドバイザー総括

1、進行管理の問題で、もう少しで統合されるというところまできたのは良いことだと思います。進行管理をしっかりやっていき、それが市民に見える形で公開されるということはこれから大切になってくると思います。

2、映像化の問題で思ったことで、講座の中でバリアフリー化とか、子育てをしている人とか、バリアのある人が参加できることを考えるということはこの部署でやっていかないといけないことだと思う。

3、全体の動きもちろんで、プランと生涯学習の実際の年度の評価と、生涯学習としてどういう方向性をもってほしいのか、シートを記入するときに、できたものの評価だけでなく、こうしてほしいという要望を書けるようになってほしいと思う。生涯学習の方向性を各部署へ発信していくことも必要と思う。

(16 : 10 終了)